

持続可能な知多半島づくりを目指して

半田キャンパスの地域づくりプロジェクトは、現代GPとして活動する以前から、日間賀島をメインに取り組んできた調査活動チームです。通常のゼミ活動とは違い、現在、「地域調査」を学ぶ“という視点で、新たに現地でのヒアリング調査を行ってきました。今回は、この活動をすすめている情報社会科学部3年生の榊枝君、久米君、田中君にインタビューを行いました。（インタビュー：尾嶋）



地域づくり
プロジェクト

調査近況報告 ヒアリング調査日程：2006年9月6日(水)～7日(木)

	環境班	観光班
担 当	3人（榊枝君・久米君・土井さん）	4人（望月君・鶴飼君・田中君・末竹君）
活動内容	環境面から下水道、ゴミ処理をはじめ、観光・生活について考えています。その他、イルカの住みやすい海の活動に参加しました。	観光の現状を把握し、島のアンケートを通じて住民の将来や、マナー観光面からみた持続可能な観光について考えています。
アンケート調査対象	漁師・住民・観光施設従業員	日間賀島観光協会・南知多町役場日間賀島支所職員・観光客

日間賀島の人々の協力があつたからこそ新しい発見をすることができました

一日間賀島のヒアリング調査は順調にできましたか？

初めてのヒアリング調査だったので、はじめはなかなか人に声を掛けることができませんでした。しかし、時間が経つにつれ、漁師の方など声を掛けると気軽にアンケートに答えてくれたのでとても気が楽になりました。



一観光の島として日間賀島はどう思いますか？

今のままではいけないとは思いますが、現在日間賀島でも地元近辺だけの広報活動でなく、海と全く接点のない長野などの他県の林間学校に来てもらう活動も始めています。

この活動は、日間賀島に来た子どもの親まで伝わり、今度は家族で日間賀島に来るという連鎖反応が生まれています。このような集客方法はあまり前例がないようです。観光協

会の関係者だけでなく、住民からの観光客に対してのおもてなしをしたいという優しさが伝わります。

日間賀島がここまで発展し、日本の離島の中で唯一過疎化が進んでいないという由縁はここからきているのではないかと思います。

一では、環境の島としての日間賀島はどうですか？

アンケート調査結果では、住民の環境に対する意識は十分高まっていると思います。以前、イルカが海洋投棄のゴミで死んでしまうということがありましたが、直後に海洋投棄はなくなり、海も昔の美しさを取り戻しつつあります。

現在も、観光協会や小・中学生が定期でゴミ拾いを行うなどして、環境の面でも住民が丸となり、住民の環境美化にも努めています。今後は住民の意識を高めるために将来のことを見据えながら私たちのプロジェクトで提案できたらいいなと思っています。

一みなさんが日間賀島にできることはどんなことだと思いますか？

観光客として、そして住民として

の視点の2つの視点で見ることが必要になってくると思います。

これまでのリゾート開発では、高層ビルなどハードな面で盛り上げる考え方が先行しがちでした。そうではなく、日間賀島の住民の話を通じて、ソフトの面でいつまでも日間賀島のきれいな海と元気な住民の方々の温かい歓迎ができる体制を継続することが大事です。

また私たちは、人々に日間賀島の素晴らしい資源を口コミで広める、住民と観光客との「つながり」になることだと思います。



一最後に告知！

2007年1月に日間賀島にて、9月に住民の方々に協力していただいたヒアリング調査結果を兼ねて中間報告をいたします。是非ご参加下さい。

これまでのプロジェクト活動を振り返って…

千頭 聡教授

千頭研究室では、学生を「市民」に育てることを、ゼミの活動目標のひとつに考えています。「市民」に育つためには、主体的に地域の課題を見つめ、様々な人と議論を重ね、よりよい解決策を協働して考え、共有化していく必要があります。日間賀島における調査活動は、まさに、市民に育っていくための社会的な訓練の場でもあります。学生にとっては初めての本格的な地域調査ですが、

地元のおばさんに説教をされながらも、インタビューを通じてコミュニケーション能力を高め、現地調査の中で地域を見る目を養い、研究室での議論を深めて問題構造を明らかにするなど、大きく成長しています。社会との関わりの中で成長していく学生を見つめられることは、指導する立場としてとてもうれしいものです。引き続きの健闘を期待しています。



日間賀島での住民の意見を尊重して島の活性化を考える

情報社会科学部
教授 千頭 聡